

教育分野

4 市民が自ら学び豊かな心を育むまちをつくる

1 子どもの生きる力を育むまちをつくる

- | | |
|------------------------|-----|
| 1 幼児・学校教育の充実 | 108 |
| 2 児童・生徒の健全な心身の育成 | 110 |
| 3 中等教育学校教育の充実 | 112 |

4-1-1

幼児・学校教育の充実

施策の目指す姿

※教育的財産

ここでは、教育施設や文化財など、確かな学力の向上や豊かな心の育成に資する物事のこと。

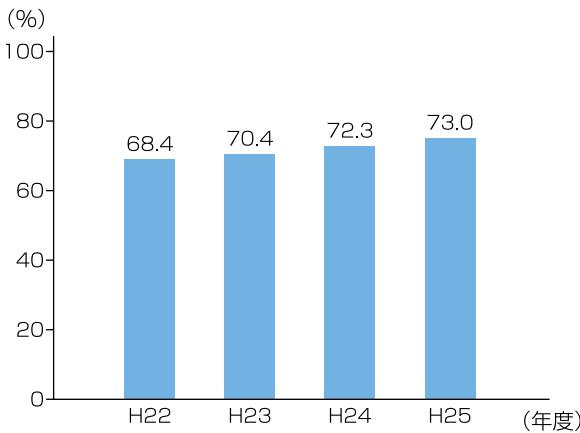
- ① 地域の人材や教育的財産を生かした学校づくりの推進により、地域の様々な人が学校教育に関わっています。
- ② 一人ひとりの学びを大切にする教育活動の充実により、豊かな心を持ち自立できる児童・生徒が育っています。
- ③ 気づきや主体性を引き出す体験活動の充実により、遊びを通して自分から周りの環境や人と関わる幼児が育っています。

現状と課題

- ① 学校教育を取り巻く社会情勢は、情報化、国際化、価値観の多様化など、刻々と変化している状態であり、このような社会変化に対応するため新しい「幼稚園教育要領」、「小・中学校学習指導要領」による、新しい教育が始まりました。今後も、学校教育に対する市民の関心や期待はますます高まると考えられ、引き続き地域の教育力を生かした特色ある学校づくり、園づくりの推進が必要とされています。
- ② これから社会を担う人材を育成するためには、基礎的、基本的な知識・技能や思考力・表現力などの確かな学力の向上と、思いやりや規範意識など豊かな心の育成に向けた取り組みをより一層充実していくことが求められています。特に、グローバル社会に対応する英語コミュニケーション能力の育成には重点を置く必要があります。
- ③ 近年、子どもの育ちが大きく変化し、基本的な生活習慣の欠如やコミュニケーション能力の不足などが指摘されています。幼稚園教育では、様々な人との交流や体験活動を重視した保育の充実を図り、小学校以降の生活や学習の基盤となる力を育てることが求められています。また、保護者のニーズに応じた子育て支援や預かり保育の充実も必要とされています。

関連データ

■ 将来の夢や希望の実現に向け努力している児童・生徒の割合



市民の実感 (H26市民意識調査)

本施策「幼児・学校教育の充実」について「満足」または「どちらか」というと満足」と回答した市民の割合

36.4%

施策の基本方針

- ① 特色ある学校づくりを推進し、地域に根ざした学校教育を創造します。
- ② 教育内容の充実を図り、夢や希望の実現に向け生き生きと学ぶ児童・生徒を育てます。
- ③ 幼児教育の充実を図り、小学校以降の生活や学習の基盤となる力を育てます。

施策の展開

① 特色ある学校づくりの推進

- 伊勢崎市独自の教育構想の策定・推進^{*}
- 未来力学習講座の意図的、計画的な展開^{*}
- カリキュラムパートナー制度の活用・拡充^{*}

② 教育内容の充実

- 確かな学力の向上と豊かな心の育成
 - 一人ひとりが学ぶ喜びや楽しさを実感できる授業の展開
 - 小中一貫9年間の英語科学習の推進・充実
 - 幼小中一貫生活・学習ルールの徹底^{*}
 - 学校規模適正化の検討・推進
- 特別支援教育の充実
 - 介助員の配置
 - 特別支援に関わる相談機能の充実

③ 幼児教育の充実

- 様々な人との交流や体験活動を重視した保育の展開
- 小学校への滑らかな接続を図る取り組みの充実
- 保護者のニーズに応じた子育て支援と預かり保育の充実

※伊勢崎市独自の教育構想

確かな学力の向上、豊かな心の育成、地域の教育力の活用などについて、本市の学校教育で重点を置く共通の方向性や施策を示した単年度方式の教育構想。

※未来力学習講座

地域、企業、大学の方々から生き方や社会の仕組みなどについて教わることで、夢や希望の実現に向け挑戦する意欲や態度（「未来力」）の向上を図る授業のこと。

※カリキュラムパートナー制度

学校や幼稚園が必要に応じて企業や大学と連携し、企業や大学が有する人的・物的教育資源を積極的に取り入れ、教育の質を向上させるための制度。

※幼小中一貫生活・学習ルール

幼稚園、小学校、中学校の11年間の一貫指導により、子どもたちに確実に身に付けてほしい基本的な生活習慣や学習習慣を、あいさつ、言葉づかい、整理・整頓、おもいやりなど、13項目にまとめた具体的な約束のこと。



関連計画

教育振興基本計画(平成27年度～平成31年度)

まちづくりの指標(成果指標)

指標名	現状値 (平成25年度)	目標値 (平成31年度)	解説・算出方法など
将来の夢や希望の実現に向け努力している児童・生徒の割合	73.0%	85.0%	生活・学習状況調査で「している」、「どちらかというとしている」と回答した児童・生徒の割合の小学校1年生から中学校3年生までの平均
英語の学習が楽しいと感じる児童の割合	93.0%	95.0%	小学校英語科アンケートで「楽しい」と回答した児童の割合
幼稚園が楽しいと感じている幼児の割合	84.4%	100%	市立幼稚園の幼児、保護者を対象としたアンケートで「楽しい」と回答した幼児の割合

4-1-2

児童・生徒の健全な心身の育成

施策の目指す姿

※基本的生活習慣

調和のとれた食事、十分な休養や睡眠、適切な運動など、子どもが健やかに成長するために必要な生活リズムのこと。

① 基本的生活習慣が身に付き、児童・生徒が心身ともに健康に学んでいます。

② 安全性が確保され、充実した給食を児童・生徒がおいしく食べています。

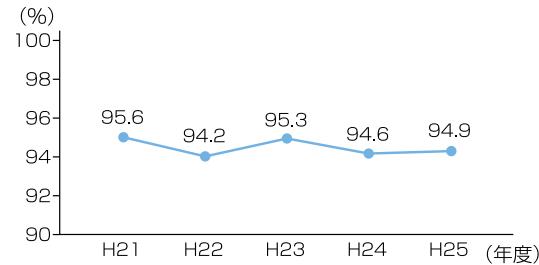
③ 学校内外での安全対策と安全指導により、児童・生徒が安心して学校生活を送っています。

現状と課題

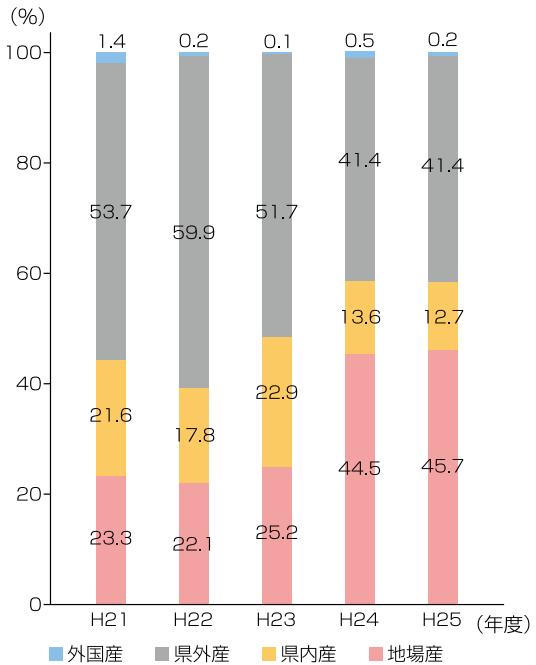
- ① 生活習慣が乱れ、学習意欲や体力、気力が低下している児童・生徒について社会問題化しています。学校生活の基盤である児童・生徒の基本的生活習慣を確立するため、保護者への啓発活動を推進していく必要があります。
- ② 放射性物質や食物アレルギーなど食品の安全性に対する市民の意識が高まっています。生産者の見える地場産の食材の使用などによる、安心・安全な学校給食の提供が求められています。
- ③ 児童・生徒は、日常生活の中で災害、交通事故、不審者などの様々な危険にさらされています。児童・生徒や保護者が安心できる環境の整備とともに、自らの身を守ることのできる危険回避能力を育成することが求められています。

関連データ

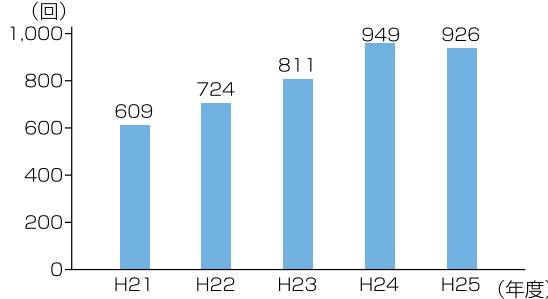
■児童・生徒の朝食摂取率



■地場産食材(野菜など)の使用量比率



■学校栄養職員による食育指導の回数



市民の実感 (H26市民意識調査)

本施策「児童・生徒の健全な心身の育成」について「満足」または「どちらか」というと満足」と回答した市民の割合

38.0%

施策の基本方針

- ① 健康教育の充実を図り、生き生きと学校生活を送る児童・生徒の育成を目指します。
- ② 安全管理の徹底を図り、安心・安全で充実した学校給食の提供を目指します。
- ③ 安全対策を強化し、児童・生徒の安心・安全な学校生活の確保を目指します。

施策の展開

- ① 健康教育の充実
 - 保健指導の充実
 - 食育指導の充実^{*}
 - 医師会や食生活改善推進協議会などの関係機関との連携強化
 - 基本的生活習慣の確立に向けた家庭への啓発推進
- ② 学校給食の充実
 - 地場産食材の活用推進
 - 献立の充実
 - 食材、食品の安全管理の徹底
 - 食物アレルギー対策の徹底
- ③ 安全対策の充実
 - 保護者、地域、学校の協働による安全点検の実施
 - 警察などの関係機関と連携した通学路の安全対策
 - 交通安全指導の充実
 - 災害対応マニュアルの充実
 - 実効性を高める避難訓練の実施

※食育

栄養の偏り、不規則な食事、肥満や生活習慣病の増加などの食に関する様々な問題に対し、正しい知識を身につけ、健全な食生活を実践することができる人間を育てること。



関連計画

教育振興基本計画(平成27年度～平成31年度)

まちづくりの指標(成果指標)

指標名	現状値 (平成25年度)	目標値 (平成31年度)	解説・算出方法など
児童・生徒の朝食摂取率	94.9%	96.0%	小学校6年生、中学校3年生を対象とした調査で朝食を食べて登校した児童・生徒の割合
学校栄養職員による食育指導の回数	926回	1,000回	小・中学校で食に関する指導が実施された回数
地場産食材(野菜など)の使用量比率	45.7%	50.0%	学校給食調理施設で使用される食材のうち、本市産食材の占める割合

4-1-3

中等教育学校教育の充実

施策の目指す姿

※グローバル

物事が世界的、地球全体的な規模であるさま。

- ① 四ツ葉学園中等教育学校の生徒が知性と道徳性を身に付け、夢や希望を持って学んでいます。
- ② 四ツ葉学園中等教育学校の生徒は地域社会に貢献し、グローバルに活躍できる人材としての素養を身に付けています。

現状と課題

- ① 四ツ葉学園中等教育学校では、中高一貫教育の特徴を生かした、計画的、継続的な教育に取り組んでいます。6年間の安定した環境で、生徒の多様な個性の伸長や優れた才能の発見に努め、確かな学力と豊かな人間性の育成を重視しながら、生徒一人ひとりの進路の実現を目指した指導が求められています。
- ② 世界、日本、地域が日々変化していく中、四ツ葉学園中等教育学校では、グローバル社会への対応力を備え、国際的視野をもって地域社会に主体的に貢献できる教養人を育成していくことが求められています。

関連データ

■ グローバル教育を推進するカリキュラム構成

※コアカリキュラム

生徒の問題解決を中心におき、基礎的な知識と技術を学習する教育課程のこと。

※ソーシャルビジネス

福祉、環境、貧困などの社会的課題について、ビジネスの手法で解決していく活動のこと。

※GTEC

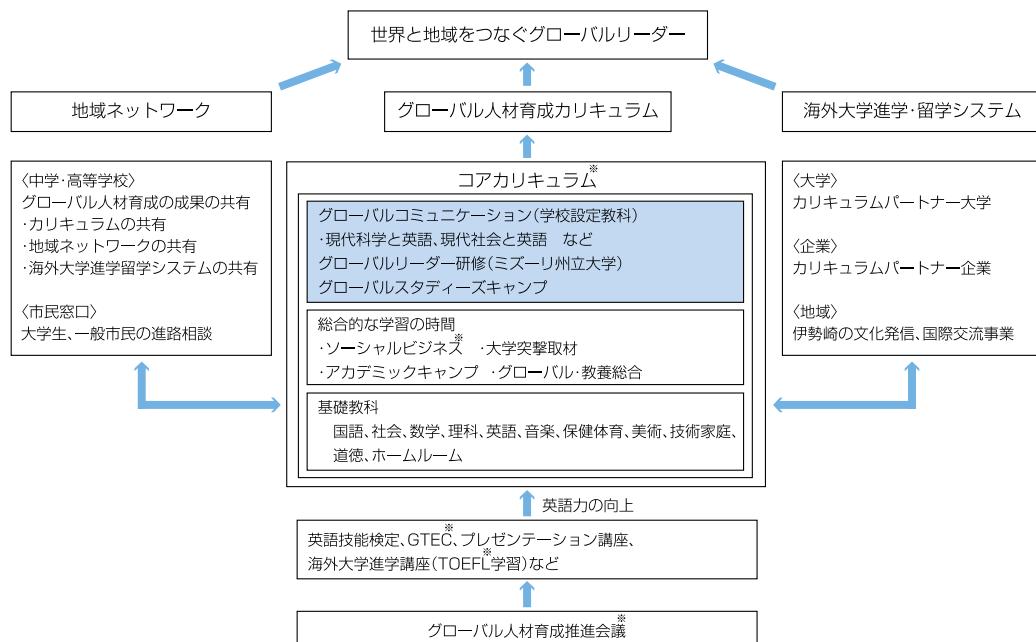
Global Test of English Communicationの略で、民間の会社が実施している英語検定。

※TOEFL

Test of English as a Foreign Languageの略で、米国の非営利教育団体が英語を母国語としない人を対象に実施しているテスト。英語能力を証明するものとして留学などの機会に使用されている。

※グローバル人材育成推進会議

グローバル教育の推進体制を構築するため、グローバル教育の在り方や方策などについて提言を行うとともに、その教育実践や成果について点検評価を行うための会議。



市民の実感 (H26市民意識調査)

本施策「中等教育学校教育の充実」について「満足」または「どちらか」というと満足」と回答した市民の割合

27.5%

施策の基本方針

- ① 四ツ葉学園中等教育学校では、中高一貫教育の特徴を生かし、知性と道徳性を身に付けた教養人を育成します。
- ② 四ツ葉学園中等教育学校では、特色ある教育を推進し、地域の学校や企業、大学などと連携することにより、地域社会に貢献できるグローバル人材の育成を図るとともに、その成果を共有します。

施策の展開

① 中等教育学校ならではの教育の推進

- 6年間一貫教育の充実
 - 発達段階に応じた3段階の学習ステージ
- 高校入試の影響を受けない教育活動
 - 繼続的で効率的な学習、生活、部活動の実施
- サポートリーダー制の活用^{*}

② 特色ある教育の推進

- スキルアッププログラム^{*}の充実
 - 朝・放課後・土曜SUP、夏季・春季SUPなどの計画的な実施
- キャリア教育^{*}の充実
 - アカデミックキャンプ、キャリアディスカバリー^{*}などの実施
 - カリキュラムパートナー制度の活用
- グローバル人材の育成
 - 海外語学研修、ふるさと学習、グローバルスタディーズキャンプ、海外グローバルリーダー研修^{*}の実施



関連計画

教育振興基本計画(平成27年度～平成31年度)

まちづくりの指標（成果指標）

指標名	現状値 (平成25年度)	目標値 (平成31年度)	解説・算出方法など
教育活動に満足している生徒の割合	93.0%	100%	四ツ葉学園中等教育学校の教育活動などに対して行われる「学校評価」で、特色ある活動に満足していると回答した生徒の割合
英語検定の取得率	93.5%	100%	四ツ葉学園中等教育学校3年生のうち、実用英語技能検定3級以上を取得した生徒の割合

※サポートリーダー制

上級生が下級生の学習・生活・進路面などでのアドバイスを行うなど、生徒が生徒を育てる教育活動。

※スキルアッププログラム(SUP)

授業の他に生徒個々の学習を補充・深化したり、各種検定に備えて実力を養成するための講座。

※キャリア教育

生徒が勤労観や職業観を形成し、将来の様々な課題に柔軟かつたくましく対応する力を意図的、計画的に培う教育。

※アカデミックキャンプ

一つのテーマについてじっくりと時間をかけて、学ぶ喜びと探究心を養うための学習活動。

※キャリアディスカバリー

グローバル企業や大学を訪問し、働く場としての企業の概要や大学での学びについて知り、将来の進路について考える活動。

※グローバルスタディーズキャンプ

4年生を対象に、外国人講師による英語研修や各界で活躍する社会人の方々から講義を受ける宿泊研修。

※海外グローバルリーダー研修

5年生を対象に、姉妹都市の米国スプリングフィールド市内の企業や市施設で、世界的な問題であるテーマについて地域の視点で探究的な体験活動を行う海外研修。